

## 11月14日、経営本部に対する07年度予算・人員の要請行動で 「小児病院の定数増」を発言

森越初美さん(清瀬小児病院分会長)の発言を紹介します。

衛生局支部は、この他に「府中病院の夜勤体制・放射線科の要求」(並木府中病院分会長)、「地方独立行政法人問題」(松平神経病院副分会長)、「ナースの不払い残業」(森永神経病院書記長)について発言しました。病院支部は給食調理の委託問題、梅ヶ丘病院、豊島病院、看護師要求で発言しました。

私は小児病院定数について要請します。

清瀬小児病院は、長年の要求であったICUが設置され、看護師の定数化がされましたが、その分、外来看護師の定数が4名削減され、7名から3名になってしまいました。病棟からの助勤体制をするようにとの方針でしたが、実態はどうか。10月の時点で看護師の定数は埋まっていますが、産休・病欠が10名おり、実際は各病棟が1名から3名の欠員になりました。そのために外来助勤が困難になり、外来は人の配置をするためにパニックです。300名規模の外来数に3名の定数ではとても回りません。サービス低下をきたしています。是非復活させてください。

また、今年改正された診療報酬での看護師の1.4対の看護料。現在は清瀬だけが取れていると思いますが、10月夜勤時間が規定の72時間を越える職場が4病棟になり、これも大騒ぎになっています。2対1の看護料に戻ると今までよりも収入が減ってしまいます。実際に働いているスタッフでカウントされる診療報酬制度です。実質欠員がないよう配置していただきたい。今年清瀬は19名の新人が配置されました。しかしすでに2名が退職し、引き続き病欠の新人もおります。

半年で5名がメンタルでの病欠を取りました。

小児病院の特徴をお話します。

まず、点滴が必要な児は全て輸液ポンプを使用します。何種類かのポンプがありますから全て使い方を理解しなければなりません。1人に15台使用することもあります。0.1ccという微量を管理することもあります。

また小児は日々成長しています。遊びなど関わりを通して成長するので、月齢、年齢に応じた生活援助が必要です。正常な発達過程を理解していなければ、異常の早期発見もできません。人工呼吸器をつけていても長期になる児は眠らせないで管理します。成長発達のためには必要なことです。しかし、目を離すと自分で抜いてしまうかもしれない。その危険との背中合わせでの看護が小児科です。これらから、新人にはストレスも多いし、独り立ちには時間がかかると言われています。

私が言いたいのは、これから新病院を作るにあたり、これ以上小児病院看護師の定数を削減したら「さあ新しい病院はできた。しかし現場では看護師の教育に時間がかかり回らない。」ということになってしまうということです。病床稼働は医師の確保が大きく影響します。小児科医師の労働条件を良くして、まず、働き続けたい職場にして欲しい。年数えるくらいしか休みが取れない医師もいます。そしてこれ以上看護師を減らさず、安全のために院内運用している職場には必ず定数をつけて欲しいと思います。ベッド稼働だけを見て看護師の定数を削減するのはやめていただきたい。

また、児にはきちんと成長するためにも遊びが重要です。保育士を複数で定数化して欲しい。

小児科を利用されるご両親はまだ若く、したがって収入も低い方が多い。新病院になったら(私たちは地域住民とともにまだ反対していますが)駐車場や差額ベッド料が設定される危惧があります。サービスは低下させないと回答されているのですから、利用者負担が増えることは絶対阻止していただきたいと思います。